

デュフロン®DFルーフ

強靱な塗膜、高い滑雪性。進化した究極のトタン屋根用塗料

デュフロンDFルーフ

4つの
特長

01

「長期間保つ」

強じんな塗膜・優れた定着性・滑雪性能

外壁面より高レベルな耐久性(強さ)と光沢(美しさ)を求められるのがトタン屋根用塗料。

『デュフロンDFルーフ』は、耐候性や耐水性に優れた強じんな塗膜を形成するとともに、密着性にも優れるため、塗りたての美しさ(初期光沢)を長期間保ちます。

また、寒冷地での高い滑雪性を発揮するのも「デュフロンDFルーフ」の強さです。



<施工例>北海道・旭川

■『デュフロンDF』と従来塗装の比較

	『デュフロンDFルーフ』 (フッ素樹脂)	当社1液形トタン屋根塗料 (シリコン樹脂)	当社1液形トタン屋根塗料 (アクリル樹脂)
配合溶剤	弱溶剤 (ターペン)	弱溶剤 (ターペン)	弱溶剤 (ターペン)
耐候性	○	○	×
光沢	○	○	○
密着性	○	○	○
耐水性	○	○	○

02

「熱／紫外線に強い」

塗りたての美しさを保つ耐候性をパワーアップ

屋根に対する日射量は、もっとも日当たりの良い南側壁面と比較して2倍以上(年間平均)、とくに日射しの強い夏は6倍以上に達し、しかもトタン屋根の場合は真夏で約50℃以上にもなります。

またダメージを大きく与える紫外線も日射量に応じて多くなります。

こうした過酷な条件を与える太陽光、時に紫外線から屋根を守る「熱・紫外線に強い耐候性塗料」です。

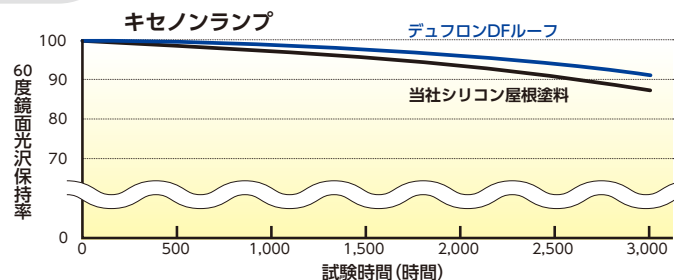
03

「高い光沢感を維持する」

塗りたての美しさが保たれる

光沢が優れた塗膜は、特に晴れた日などはきらきらとした外観を持ちます。しかし、塗膜の劣化が進行していくと、光沢が低下します。

一般的に光沢は平らな面であるほど、鏡面に近くなり、光沢度が増しますが、ざらざらな表面であると、拡散反射が起こり、光沢度は低下します。『デュフロンDFルーフ』の塗膜は特殊技術により高い光沢感を得られ、また高耐候であることから、長期に渡り光沢を維持することができます。



04

「キズが付きにくい」

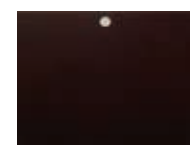
滑雪時に発生するキズや剥がれから強力にガード

屋根に積もった雪が凍結し硬くなると、滑り落ちる際に塗膜を傷つけたり剥がしたりします。これらはトタンの大敵である「さび」の発生要因です。

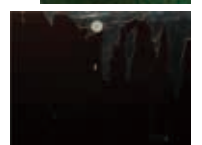
『デュフロンDFルーフ』の強じんな塗膜は、キズや塗膜の剥がれなどから屋根をまもり、美しい外観を長期間保つため、塗り替え周期も大幅に延ばすことが可能です。

■塗膜剥離試験

試験板を氷から強制的に引き抜き、塗膜強度を測定。『デュフロンDFルーフ』と従来の塗料との試験結果を比較。



デュフロンDFルーフ
(キズが付きにくい、剥がれにくい)



従来の屋根用塗料(当社品)
(キズや、剥がれが目立つ)

■製品体系

塗料名	デュフロンDFルーフ
系 統	ターペン可溶フッ素樹脂トタン屋根用塗料
容 量	15kg セット (塗料液 : 硬化剤 = 13.5kg:1.5kg)
色 相	12 色
つ や	つや有り

※色相については、色見本帳をご用意していますのでご覧ください。

■適用下地

●トタン屋根、鋼板屋根

■標準塗装仕様 (塗り替え)

工程	製品名	塗り回数	使用量 (kg /㎡ / 回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺を含め念入りに除去する。さびは電動工具や、サンドペーパー・研磨布などを用いて清掃する。						
下塗り	ハイボンファインプライマーⅡ	1	0.16	4 時間以上 7 日以内 ^{※ 1}	塗料用シンナー A	0 ～ 10	はけ・ウールローラー
			0.18			0 ～ 5	エアレススプレー
上塗り	デュフロンDFルーフ	2	0.12 ～ 0.14	3 時間以上 7 日以内	塗料用シンナー A	0 ～ 10	はけ・ウールローラー
						5 ～ 15	エアレススプレー

・上記の数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
※1) ※ 高温下では硬化反応が著しく速まります。高温時の施工では、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。塗り重ね時間を過ぎると上塗りの密着性が悪くなります。その場合は再度下塗りを塗装するか、ペーパーをかけるなどしてください。

■荷姿

塗料名	色相	つや	容量	塗料液:硬化剤 混合比 (重量比)	混合後の可使用時間 (23℃)	1 缶当たりの塗装面積
ハイボンファインプライマーⅡ	ホワイト・グレー・ 赤さび色・黒さび色	—	16kg セット 塗料液 14.4kg / 硬化剤 1.6kg	9 : 1	6 時間	100㎡ / 回 (はけ・ウールローラー) 88㎡ / 回 (エアレススプレー)
			4kg セット 塗料液 3.6kg / 硬化剤 0.4kg			25㎡ / 回 (はけ・ウールローラー) 22㎡ / 回 (エアレススプレー)
デュフロンDFルーフ	12 色	つや有り	15kg セット 塗料液 13.5kg / 硬化剤 1.5kg	9 : 1	6 時間	53 ～ 62㎡ / 2 回

■基本カラー 12色

ベーシックカラー 12色から好みの色をお選びいただけます。

					
ブラック	ナイスブルー	チョコレート (N)	セルリアンブルー	サニールレッド	ビーバーレッド
					
エンペラーブルー	アイビー	マーズレッド	ニューワイン	コーヒブラウン	ホワイト

※色は印刷のため近似色です。※色相については、ルーフペイントシリーズ色見本帳をご用意しておりますので、そちらをご覧ください。

施工上の注意事項 (詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。)

1. なみがたトタンの山の部分やトタン板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。先に抬い塗りするのが長持ちさせるコツです。	するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
2. 塗り重ねは規定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。硬化が不十分な場合は、塗料用シンナーで再溶解するおそれがあります。	19. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
3. トタン素地が見えている所、さびの生じている所はケレン後、必ずさび止め塗料を塗装してください。使用できるさび止め塗料については、各塗装仕様書をご参照ください。	20. 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤影れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
4. 鉛酸カルシウムさび止め (JISK 5629) は、下塗りに使用しないでください。	21. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度 85% 以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
5. 塩ビソル鋼板の上の塗装は、避けてください。ただし、経年でつやが引けているような塩ビソル鋼板に対しては、変性エポキシ樹脂プライマーを下塗りに使用することで塗装できる場合があります。詳細は事前にご相談ください。	22. 塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
6. 昼夜の温度差が激しい時期や、山間部など夜露の早く降りる地域では、結露によるつや引け現象が起こりやすいため、早めに塗装を終えて十分に乾燥時間を確保してください。塗装後早期に結露の影響を受けた光沢低下や膨れ、割れ、はく離の原因になります。	23. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
7. 積雪の荷重を最も受けやすい軒先の部分、瓦葺の凸部にこすり付けるように増し塗りを行ってください。	24. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
8. 塗り替え直後は、滑雪性がよくなる場合があります。積雪時にまとまった雪が落ちる可能性がありますのでご注意ください。	25. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
9. 十分な塗膜性能を確保するため、規定の使用量をおまもりください。	26. 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
10. ごみ・ほこり・砂・油・樹液などは、塗装前に水洗い、溶剤拭きなどで十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。	27. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
11. 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。	28. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
12. 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。	29. ローター塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
13. 異なる色相を塗り重ねる場合 (例 : 1 回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など) 2 回目の上塗りが 1 回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色 (ブリードにより) する場合がありますのでご注意ください。	30. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
14. 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。	31. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
15. 水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。	32. ローター、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
16. 硬化剤は湿気 で硬化しますので密栓して貯蔵してください。	33. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
17. 塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。	34. 開封後は一度に使い切ってください。 やむを得ず保管する場合は密栓してから暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
18. 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合 (高湿度、結露、降雨など)、塗膜表面が白化	35. 塗料漏洩の原因になりますので、保管運搬時に容器を横倒しにしないでください。